

平成30年度 善行賞表彰者一覧

福島県高等学校PTA連合会健全育成委員会

No.	学校名	氏名(学年)・団体名	理由
1	福島高等学校	渡部 真子 (2年) 佐藤 未実 (1年) 小針 優太 (1年)	平成30年11月29日、国道13号線ヤマダ電機付近で、女性が自転車との衝突で倒れているのを発見。警察に通報、救急車を呼び、その後3人で救急車が来るまで付き添った。その間、被害者に寄り添い会話をしたり、健康面に配慮したり、3人の冷静な対応で被害者の安全を確保して医療機関につないだ。
2	福島高等学校	弓道部 齋藤 正隆 (2年) 山口 啓太 (2年)	平成30年8月8日、児童2名の自転車が接触し転倒するのを目撃。一人の児童が手首の動脈を切る大けがを負っていたため、適切な救急処置並びに救急車を呼ぶ等の対応をした。更に、この児童からの少ない情報を基に、母親の職場を突き止め、連絡をとることができた。
3	福島高等学校	後藤 健太 (1年)	平成30年5月上旬、JR桑折駅ホームで重い荷物を持った高齢の女性を見つけ、声を掛けて荷物を持ち階段を上り下りして改札口まで運び感謝された。(資料：5月26日付け福島民報)
4	福島工業高等学校	秋葉 歩夢 (1年) 吉田 航大 (1年)	平成30年11月28日、JR藤田駅ホームで荷物を持った高齢の女性に「荷物を持ちますか」と声をかけたところ「大丈夫です」と言われたが「この階段は急ですから持ちます」と言って吉田が荷物を持ち、秋葉が女性に付き添い「大丈夫ですか?」と言い改札口まで荷物を運んだ。
5	福島工業高等学校	服部 大登 (1年)	平成30年12月12日朝、福島県立美術館前の道路で転倒し、立ち上がることが出来ないでいる高校生を見かけ、高校生の通う有朋高等学院へ電話をして状況を伝え、担任の先生が到着するまで付き添った。(資料：12月18日付け福島民報)
6	川俣高等学校	家庭クラブ JRC同好会	川俣町内や近隣の高齢者施設でのボランティア活動を継続して行うとともに、街頭募金活動や町内の行事への協力を通して、入所者や利用者の方々に喜ばれる活動、地域の活性化に貢献した。
7	郡山高等学校	菅野 優真 (2年) 添田 花奈 (3年)	郡山市と郡山警察署が共催するヤングボランティア「グリーンフォース」隊員として委託を受け、1年間活動した。
8	白河実業高等学校	大谷 晴輝 (3年) 熊崎 翔太 (3年) 荒井 拓海 (3年) 大島 峻 (3年) 小貫 悠人 (3年) 小山田 峻 (3年) 鎌田 善椰 (3年)	学校近隣の自治会がゴミの散乱に困っていたため、「ゴミ回収ボックス」を製作し設置した。
9	船引高等学校	佐久間周平 (1年) 宗像 大真 (1年) 渡邊 愛斗 (1年)	体育の授業中校外をランニングしていた際、座り込んでいるお年寄りの女性を発見した。3名はすぐに女性に声をかけ、通りかかった本校生の保護者と一緒に、近くに停めてあった女性の車まで介抱しながら連れて行った。女性は車に無事に乗り感謝の気持ちを述べたのち帰っていった。
10	喜多方高等学校	野球部 (1, 2, 3年生 21名)	北宮諏訪神社例大祭 (8月3日)において、装束を着用して御輿を担ぎ、御輿を先導して喜多方市内を練り歩いた。例年実施しており、猛暑の中地域のために頑張っている。
11	喜多方高等学校	吹奏楽委員会	毎年3月に、救護施設「しのめ荘」利用者の方々に対してボランティアでの慰問演奏を実施している。
12	喜多方東高等学校	家庭クラブ	平成29年の盲導犬ユーザー支援をきっかけに喜多方市内飲食店の障害者受入れ状況を調査し、その後問題点改善のために活動している。「補助犬入店可マーク」を考案し、市内飲食店に掲示を依頼し、また見た目ではわからない障害を有する方を支援する「ヘルプマーク」の普及にも努めた。喜多方市議会でも本校家庭クラブと連携して「ヘルプカード」の普及に取り組むことが提案され、障害者、特に盲導犬ユーザーで喜多方市内を散策される方、飲食店を利用される方が増加した。

13	猪苗代高等学校	五十嵐柚太（2年）	平成30年10月10日の夕方、猪苗代町内で交通事故に遭った80歳の女性を母親とともに介抱し、制服の上着を貸すなど優しい声かけをして救急車の到着まで対応した。後日、女性の娘さんから本校に大変感謝しているとの連絡があった。
14	大沼高等学校	ボランティア委員会	学校内外の美化運動に力を注いできた。ここ数年においては、町内の行事等に参加し、町との連携・信頼を得ている。また、各施設等でのボランティアにも積極的に参加している。
15	会津農林高等学校	渡部穂乃花（3年）	平成30年2月、柳津町の旅館に宿泊予定だった台湾からの観光客が道に迷って困っていたところ、同じ電車に乗り合わせていたことから、翻訳アプリを利用して事情を把握して旅館に連絡し、迎えの車が来るまで付き添った。福島民報でも2度紹介され、知事から感謝の電話をいただいた。
16	田島高等学校	3年生全員	平成28年から2年間、田島地域の高齢者宅を中心に除雪作業を実施した。協調性・社会奉仕の精神の高揚に努め、地域の方々との関わりを通してコミュニケーション能力を高め、人間性や社会性をはぐくむことができた。
17	平工業高等学校	永山 晴輝（3年） 小泉 浩基（3年）	火事発見後に通報と消火活動を行い、被害を最小に止めた。上記内容により、功績を称えられ、平成30年8月27日に内郷消防署から表彰を受けている。
18	いわき海星高等学校	大和田莉菜（3年） 小松 広弥（3年） 中川 沙月（3年） 蛭田 海人（3年） 小堀 勇希（3年） 吉田 那拓（3年）	入学時より、いわき市の伝統芸能「じゃんがら念仏踊り」を継承する、チーム「じゃんがら」に所属し、震災後の地元復興と鎮魂、風評被害払拭のため、3年間「じゃんがら念仏踊り」を披露してきた。また、老人ホームや介護施設などにおいても「じゃんがら」を披露し、活発にボランティア活動を展開し、社会貢献に努めた。
19	勿来高等学校	音楽部	特別養護老人ホーム「ハートフルなこそ」の訪問演奏を8年間継続して行っている。平成28～30年は前期、後期と年2回行った。今後も更なる活躍が期待される。
20	四倉高等学校	猪狩 海斗（2年） 上原 大輝（2年）	平成30年10月中旬の夕方18時頃、本校生徒2年生2名が四倉小学校周辺の自動販売機の近くで迷子になっている小学生（低学年）を見つけた。塾帰りの小学生に声をかけ、母親の連絡先を確認し、本校生徒が母親に連絡をとった。その後、母親が迎えに来るまで四倉高校近くのローソンで一緒に待ち、母親に小学生を引き渡した。